

文化財保護センターだより

第9号

平成6年3月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒501-02 岐阜県本巣郡穂積町牛牧宮下395

TEL(FAX)05832-7-8980

●もくじ

寺屋敷遺跡 現地説明会開催…… 1	トピックス…………… 4
民間の一研究者の願い…………… 2	平成5年度発掘調査状況…………… 6
発掘を終えて…………… 3	センターだより…………… 8



寺屋敷遺跡 現地説明会開催

寺屋敷遺跡は揖斐郡藤橋村の徳山地区にある旧石器時代(約20,000年前)～平安時代後期(約1,000年前)の遺跡で、昨年8月より調査を開始しました。さる11月23日に3回に分けて開催された現地説明会には、約150人の皆さんが参加されました。写真中央の白線で囲まれた部分が、調査で確認された礎石建物跡です。3間×3間の平安時代の仏堂建築様式を備えた寺院が正面を南(写真奥)に向けて建立されていたと考えられます。



民間の一研究者の願い



日本考古学協会員
大江 命

岐阜県文化財保護センターが発足して、満3年目に当る年を迎えるに当り、その成果が遂次あげられている現状に敬意を表すると共に、今後益々の発展を念じてやまない。

実際現場で発掘調査に当たっていると、期日、天候、作業協力者確保、予算などのほか、言葉に出せない苦悩がある。また発掘調査が終ったという安堵感と、遺跡が消滅していく姿を目の当たりにする空しさが残る。また調査で得た資料の整理と報告書作りにもそれなりの苦労が伴う。調査を完成するには強い意思と体力が要求される大変な仕事である。センターの目的の一つである発掘調査に携わっておられる方々の努力と、その労を推察申し上げる。

センターへの提言、期待、願い等については、文化財保護センターだよりの『きずな』に、既に諸先生によって述べつくされているので重複するかも知れないが、センターに是非考えてみてもらいたいことを、二、三述べさせていたゞく。

① 実は昨秋『きずな』の創刊号より8号を拝読させていたゞき、このたよりを県内の考古学、文化財などに関心のある方々に広く配布をお願いしたい。経費と、配布範囲の問題など色々なことが考えられるが、「文化財保護センター友の会」のようなものをつくり実

費で広く希望者に配布するようにしたらと考えられる。また発掘報告書も県内の研究者に広く行きわたるようにしていただきたい。

② 『きずな』に記載されている内容は、センターだよりのみであるのは当然であろうが、そのほかの県内の文化財調査活動の動向が把握出来るような欄をもうけてほしい。

③ かつての埋文関係の中にあつて、上部機関か、行政官個人の意見であつたかはさだかでないが、一方的な指導があつた民間研究者より見ると、官僚的と思われる点が多々あつた。現在色々な場でセンターの方々と接する機会を得ている。私の知る範囲では、過去のような姿はなく、新しい機関としての歩みを感じられる。どうかこの機関は官僚的な方向に流れることなく、いつまでも民官協和の機関であつてほしい。

④ 調査の成果の大小によらず、全ての遺跡で、市民に対する現場説明会を実施していたゞきたい。発掘調査に関わっている者として、考古学関係者以外の方にセンターの担当される現場について説明を求められる場合もあり、明確な説明が出来ない場合が多い。是非、現場のある内に行ってもらえないか。

以上ささやかなことを記述したが、文化財が国民的財産である視点に立ち、県民にその成果の報告と資料の公開をお願いすると、発掘調査の最前線の研究機関として、また、民間研究者の指導的な良きセンターとして、益々の発展を願うものである。

発掘を終えて

■陰地遺跡発掘調査概要

所在地 加茂郡東白川村越原
 発掘調査期間 平成5年5月13日
 ～平成5年11月21日
 調査面積 1,500m²
 遺跡の立地 白川左岸段丘上の畑地
 時代 縄文時代



陰地遺跡で検出した竪穴住居跡

はじめに 飛騨川支流の白川流域には、縄文時代を中心に35か所の遺跡があります。これらは、遺物の採集により、縄文時代中期～後期の遺跡と推定されていましたが、遺構の有無や詳細な時期は不明でした。今回の県道改良工事に伴う陰地遺跡の発掘調査は、白川流域における初めての発掘調査となりました。**遺構について** 縄文時代中期に属する竪穴住居跡・土坑・ピット群が検出されました。竪穴住居跡は縄文時代中期中葉（約5,000年前）のものと同中期後葉（約4,500年）のものが各1軒ずつ検出されました。このうち、後者は、直径4.5mのほぼ楕円形で、中央に石囲炉と周囲に配置された4本の親柱、それらに入口部に埋甕が検出されました。この構造は信州や関東に多く見られるものです。しかし埋甕に使われていた土器そのものは、愛知県・岐阜県を中心とする東海地方に分布するものです。

以前より、飛騨川中流域は信州系と東海系

の文化が交錯する地域と考えられていましたが、この住居跡はこのことを最も典型的に示しています。

遺物について 主な出土遺物は、縄文時代の土器・石器類そして中世の山茶碗でした。土器は縄文時代中期の井戸尻式・中富式の各土器と、後期の加曾利B式土器、それに晩期大洞式土器でした。出土点数の最も多かったのは後期の土器ですが、住居跡は検出されませんでした。しかし、出土状況を観察すると中期の住居跡の周辺に見られたピット群が、後期の土器と同時期の可能性が高いと考えられます。

石器の石材は、ほぼ9割が下呂町湯ヶ峰に産する下呂石であったほか、信州産と思われる黒曜石の石鏃やフレイクも多数出土しており、他地域との交流を想起させます。

■山手宮前遺跡発掘調査概要

所在地 揖斐郡藤橋村山手宮前
 発掘調査期間 平成4年10月1日
 ～平成5年12月10日
 調査面積 2,729m²
 遺跡の立地 揖斐川上流の右岸段丘
 時代 縄文時代・中近世

はじめに 山手宮前遺跡は、徳山ダム建設に伴う家屋撤去時の昭和61年に発見されました。

今回の調査で、縄文時代と中近世の複合遺跡であることがわかりました。縄文時代の遺物は、草創期（約1万年前）より晩期に至る全時期に及びました。

遺構について 徳山地区で昨年度調査した上開田村平遺跡と同じく、この遺跡も長年にわたる人々の生活で遺構面が削り取られており検出は困難をきわめました。それでも竪穴住

居跡5軒・埋甕1基と、きずな8号で紹介したフレイクが集積したピットの他に、多数の土坑・ピット類も検出できました。また、中近世のものと考えられる掘立柱建物跡2軒のうち1軒は、14の柱穴のうち9本の本柱が検出されました。その他、近世以降の井戸・竈・牛小屋等も確認できました。

遺物について 出土遺物点数6,000点のうち、縄文土器は西日本に広く分布する中期の里木・船元式土器を中心に、早期の押型文の高山寺式土器、晩期の樫王式土器など早期より晩期に至る時代のものが出土しています。

石器は、石鏃・石匙・石錘・石錐・石皿などがありますが、異形部分磨製石器や草創期の有舌尖頭器も出土しています。

トピックス

■ 2万年前の旧石器(藤橋村寺屋敷遺跡)

7年目を迎えた徳山ダム水没予定地内の発掘調査で、徳山地区では初めて旧石器の遺物(約20,000年前)を、寺屋敷遺跡で検出しました。これまで徳山の歴史は、約12,000年前から始まるとされてきましたが、歴史はさらに約8,000年さかのぼることになりました。

検出された旧石器は、ナイフ形石器とよばれるものです。出土場所は、標高336m付近の尾根横の傾斜の急な峻しい斜面で、表紙で紹介した平安時代の礎石建物の背後の尾根にな



ナイフ形石器の検出風景



山手宮前遺跡 発掘風景

中近世のものでは、山茶碗・灰釉陶器などが中心ですが、中国明朝の永楽通宝2枚と宋銭78枚が麻紐をとおした(さし銭)まま、一括して出土しています。

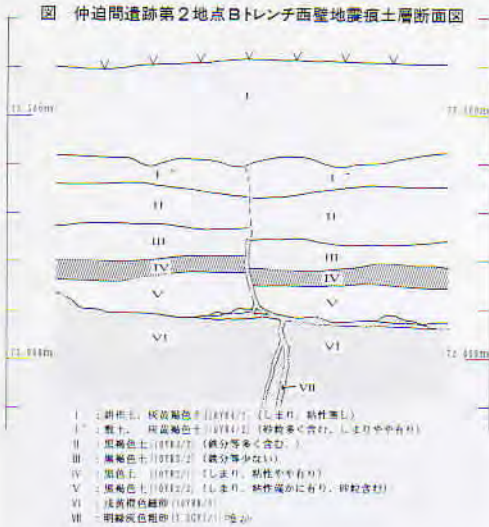
ります。

直径2mほどの狭い範囲から、ナイフ形石器2点と、石器を作る際に石核からはぎとられた剥片(フレイク)と、石器製作の時に散乱した碎片(チップ)が約370点密集した状態で出土しました。このことから、この場所で石器の製作が行われていたと考えられます。

ナイフ形石器は、狩猟具や加工具などとして使われたと考えられている石器です。

約20,000年前はヴェルム氷期と呼ばれ、氷河時代の中でも最も地球が寒冷化した時期で、日本列島の平均気温も今より約7度ほど低かったといわれています。旧石器時代の遺跡はこれまで高原や平野部で発見されることが多く、徳山のような山地、それも今回のような尾根での発掘はめずらしいといえます。今回の寺屋敷遺跡からの旧石器の発見は、徳山の歴史を再考させる発見といえます。今後の調査と整理によって、さらに解明を進めていきたいと思ひます。

■県下初の地震痕(美濃加茂市仲迫間遺跡)



最近、全国の発掘現場より過去に起こった地震の痕跡が発見され報告されています。東海地方でも愛知県尾張平野部の遺跡調査により数例報告されています。今回確認された仲迫間遺跡の地震痕は、発掘調査により発見された例としては、岐阜県では初めてのことです。

今回、地震痕の発見された仲迫間遺跡は、美濃加茂市田島町4丁目にあり、国道248号の改良工事に伴い平成5年6月末より12月上旬にかけて発掘調査を実施しました。

現在、遺跡の南1kmを流れている木曾川は永い年月のなかで5段の右岸低位段丘を形成しています。仲迫間遺跡は、このうちの第3段に立地し、砂礫層が基盤となっています。

発掘調査は、微高地となっている第1地点(畑地)と北側に隣接し第1地点より50cmほど下がった第2地点(水田)、第2地点の西70mに位置する第3地点(水田)で行いました。地震による噴砂痕は、このうち第2地点のBトレンチと第3地点のI・O・Pトレンチの

4か所で検出しました。

噴砂は、地震の発生により地中の圧力が高まり、砂層中の水を絞りだして液状化した泥水が上部の層を裂いて吹き出したものです。この現象は震度5以上の強震で起こる現象です。

第2地点Bトレンチの地震痕は、図のように小規模ですが明瞭に砂脈や噴砂の痕がわかります。噴砂の層であるVII層(VI層の浅黄褐色の細砂よりやや粗い砂の層)の砂は、いったんVI層とV層との間に溜まり、その後V・IV層を突き抜けてIII層まで噴き上がっているのが観察できます。検出した砂脈は幅は約1cm長さ約1mです。

現在観察できるこの噴砂はIII層で止まっていますが、もとはI'層の上部まで延びていたと考えられます。I'層は水田の敷き土ですが他の層より砂が多く含まれています。これは、I'層上部まで噴き上げられた砂が耕作などによりI'層の中に拡散したと考えられます。なお、III・IV・V層を観察すると砂脈を挟んで左右の層が2.5cmほどずれています。

今回検出されたこの地震痕が生じた時期は、地層観察より明治時代の濃尾地震によるものとも考えられますが、断定はできません。



土層と砂脈

平成5年度岐阜県内埋蔵文化財発掘調査 平成6年1月11日現在

遺跡名(所在)	調査主体(担当者)	区分	時代	主な遺構・遺物等
寺田遺跡2 (岐阜市日野寺田)	岐阜市教育委員会 (市調査会・橋詰)	★	旧石器	旧石器時代の良好な包含層確認。遺物は寺田1と同時期、配石遺構3か所・礫群5か所。
寺田遺跡2・3 (岐阜市日野寺田)	岐阜市教育委員会 (内堀・橋詰)	☆	旧石器	旧石器時代遺物の良好な包含層確認。配石遺構3所・礫群4か所検出
御望遺跡 (岐阜市御望)	岐阜市教育委員会 (内堀信雄)	☆	縄文時代前・中期 弥生・奈良	竪穴住居跡(縄文7軒・弥生1軒・奈良2軒) 墓穴、縄文・弥生土器・石器・石製耳飾り片等
城之内遺跡 (岐阜市長良)	岐阜市教育委員会 (高木洋)	★	古墳時代 ～奈良・中世	住居跡3軒・掘立柱建物2軒検出、古式土師器、須恵器・山茶碗・カワラケ等
船山北古墳群 (各務原市船山)	岐阜県文化財保護センター (小木曾・松野・藤田)	★	古墳時代	船山北1・2・14号墳 発掘調査中
北山遺跡C地点 (各務原市蘇原)	各務原市教育委員会 (西村勝広)	☆	縄文時代早期・古 墳時代・中世	縄文土器(早期前半)・須恵器・山茶碗 中世の積石塚
宮塚遺跡 (各務原市蘇原)	各務原市教育委員会 (大熊茂弘)	☆	弥生時代中期	弥生時代環濠集落の環濠跡、弥生土器 発掘調査中
古市場遺跡A地点 (各務原市鷺沼南)	各務原市教育委員会 (伊藤昭)	☆	縄文、弥生時代、 中世、近世	堀状遺構など 発掘調査中
車洞遺跡 (各務原市各務車洞)	各務原市教育委員会 (伊藤昭)	☆	縄文時代	縄文時代早期土器・石器、集石土坑1基、集 石炉5基
今宿遺跡 (大垣市今宿)	岐阜県文化財保護センター (松野・藤田)	★	古墳時代～ 中世・近世	近現代の堀田跡検出、山茶碗、古式土師器 発掘調査中
曾根城跡 (大垣市曾根町)	大垣市教育委員会 (中井正幸)	☆	奈良、中世	須恵器、山茶碗、かわらけ
上笠城跡 (大垣市上笠町)	大垣市教育委員会 (鈴木元)	☆	中世	山茶碗、かわらけ
曾根八千町遺跡 (大垣市曾根町)	大垣市教育委員会 (鈴木元)	☆	古墳時代・中世	中世・古墳時代の木棺墓、掘立柱建物跡、古式 土師器、土師器、須恵器、山茶碗、鉄、下駄、和鏡
東町田遺跡 (大垣市曾根町)	大垣市教育委員会 (鈴木元)	☆	弥生・古墳時代	発掘調査中
昼飯4号墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会 (鈴木元)	☆		調査により自然地形と判明
庭田遺跡 (南濃町庭田)	南濃町教育委員会 (河野典夫)	☆	縄文時代	岐阜県下では数少ない貝塚の範囲確認調査 発掘調査中
美濃国府跡(第3次) (垂井町府中)	垂井町教育委員会 三重大学(八賀晋)	☆	古代	国府中心部分の遺構(4面庇付き掘立柱建物・ 竪穴住居・竪穴状遺構、布目瓦・須恵器片他
朝倉1号古墳 (垂井町朝倉)	垂井町教育委員会 三重大学(八賀晋)	☆	古墳時代	滅失古墳の痕跡検出
上原遺跡 (藤橋村山手)	岐阜県文化財保護センター (加藤・小谷)	★	縄文時代	集落跡、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構1基、 配石土坑4基他検出(調査4年目)
山手宮前遺跡 (藤橋村山手)	岐阜県文化財保護センター (鈴木昇)	★	縄文時代 ～中世・近世	竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡2棟、埋甕、 縄文草創期～晩期の土器・石器
寺屋敷遺跡 (藤橋村徳山)	岐阜県文化財保護センター (篠田通弘)	★	旧石器・縄文時代 古代	古代寺院跡礎石・ナイフ形石器、縄文土器他 発掘調査中
大河原経塚 (久瀬村東津汲)	久瀬村教育委員会 (小坂宗和)	☆	縄文時代、平安時 代末	経塚の範囲確認調査。経塚は縄文時代の遺跡 上に構築
野古墳群8・9号古墳 (大野町野)	大野町教育委員会・ 三重大学(八賀晋)	☆	古墳時代	8号(一辺15.8mの方墳) 範囲確認調査 9号(全長30.5m前方後円墳) "
南山遺跡 (美濃市極楽寺)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆	古墳時代	古墳時代前期の住居跡検出
古村遺跡 (美濃市笠神)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	☆	弥生時代	方形周溝墓15基他 発掘調査中
底津遺跡・飛瀬遺跡 (洞戸村杉原)	岐阜県文化財保護センター (中島・佐野)	★	縄文時代・中世	底津 竪穴住居跡13軒、中世墓1基 飛瀬 発掘調査中
底津遺跡 (洞戸村杉原)	洞戸村教育委員会 (吉田英敏)	☆	旧石器時代	旧石器時代遺物の良好な包含層確認

遺跡名(所在)	調査主体(担当者)	区分	時代	主な遺構・遺物等
勝更白山神社周辺遺跡 (八幡町勝更)	岐阜県文化財保護センター (市原・長屋)	★	縄文時代・中世	縄文時代後・晩期期の食料採集地、中世の井戸・溝状遺構検出
西ヶ洞・西ヶ洞古墳群 (白鳥町中津屋)	岐阜県文化財保護センター (安江・川部)	★	縄文時代・中世 ～古墳時代	縄文時代地床炉、弥生住居跡、縄文土器・石器、古墳4基、土壇墓3基
仲追間遺跡 (美濃加茂市田島町)	岐阜県文化財保護センター (宇野治幸)	★	縄文～近世	遺物散布地 地震痕(噴砂痕、砂脈、砂柱、断層)
尾崎遺跡B地点 (美濃加茂市峰屋町)	美濃加茂市教委 (可見光生)	☆	古墳時代	古墳時代の鍛冶工房跡3軒、竪穴住居跡4軒検出
西山横穴墓 (可見市久々利)	可見市教育委員会 (長瀬治義)	☆	古墳時代	6～7世紀に造営とされた横穴1基確認
矢戸上野2・3号古窯 (可見市矢戸)	可見市教育委員会 (長瀬治義)	☆	平安時代	平安時代末頃に稼働した初期の山茶碗を焼いた窯跡2基、未完窯1基検出
下切香ヶ洞子窯跡 (可見市下切)	可見市教育委員会 (長瀬治義)	☆	平安時代	平安時代末頃に稼働した初期の山茶碗を焼いた窯跡1基の本体・作業場・灰原検出
神明神社遺跡 (坂祝町勝山)	坂祝町教育委員会 (大熊厚志)	☆	縄文～近世	縄文～近世の散布地 発掘調査中
陰地遺跡 (東白川村越原)	岐阜県文化財保護センター (各務光洋)	★	縄文時代	竪穴住居跡2基検出
大原15号古窯跡 (多治見市大原町)	多治見市教育委員会 (山内伸浩)	☆	明治時代初期	連房式登り窯、染付磁器
白土原14号古窯跡 (多治見市昭栄町)	多治見市教育委員会 (山内伸浩)	☆	平安時代後半	窯窯本体・物原検出、灰釉陶器
根元遺跡 (多治見市根元町)	多治見市教育委員会 (山内伸浩)	☆	弥生・古墳時代	弥生時代中期住居跡4基、古墳時代後期住居跡1基検出。
丸山古窯 (土岐市駄知)	土岐市教育委員会 (加藤真司)	☆	江戸時代後期 ～昭和初期	窯本体・物原検出
本屋敷陶器窯跡 (土岐市泉町)	土岐市教育委員会 (林順一)	☆	安土桃山・江戸初期	窯跡周辺の物原検出
寺平遺跡 (恵那市長島町)	恵那市教育委員会 (三宅唯美)	☆	古代	正家庵寺の付属施設 発掘調査中
赤保木ボタ上5号墳 (高山市赤保木町)	高山市教育委員会 (田中彰)	☆	古墳時代	赤色顔料を塗った箱式石棺と竪穴式石室
阿弥陀堂・深作裏垣内 (小坂町赤沼田)	岐阜県文化財保護センター (上嶋善治)	★	縄文・弥生時代	縄文時代晩期～弥生時代にかけての土器・石器
的場遺跡 (萩原町羽根)	萩原町教育委員会 (大江傘)	☆	縄文時代 ～江戸時代	縄文時代～江戸時代までの複合遺跡。歴史時代の住居跡。縄文早期末～前期の土器。
西田遺跡 (丹生川村折敷地)	岐阜県文化財保護センター (本永・谷口)	★	縄文時代	縄文時代早期の土器と集石遺構。透かし彫りの土製耳飾など後・晩期の遺物と竪穴住居跡
尾崎城跡 (丹生川村町方)	丹生川村教育委員会 (河野典夫)	☆	中世	中世の城跡より掘立柱遺構や溝状遺構を検出。陶磁器片、中国製青磁・白磁
諏訪洞砦跡 (国府町名張)	岐阜県文化財保護センター (上嶋・野村)	★	中世	曲輪らしき平坦地を検出。広瀬氏の砦跡と推定。
荒城神社遺跡 (国府町宮地)	岐阜県文化財保護センター (野村・上嶋)	★	縄文時代	全面赤色化した貼床住居跡など縄文時代中期～後期の住居跡検出
十王堂遺跡 (国府町広瀬町)	国府町教育委員会 (岩花秀明)	☆	古墳時代 ～白鳳時代	石橋庵寺の付属施設と想定される、白鳳期の掘立柱建物跡。
養輪石橋遺跡 (国府町養輪)	国府町教育委員会 (岩花秀明)	☆	古墳時代・中世	飛騨地方有数の古墳時代集落建物跡、中世井戸跡
杉崎庵寺 (古川町杉崎)	古川町教育委員会 (河合英夫)	☆	白鳳時代	金堂・塔・講堂・経蔵など中樞部と、中門・掘立柱塼の伽藍。墨書土器・刻書土器・木簡等
こうろう遺跡 (朝日村万石)	朝日村教育委員会 (河野典夫)	☆	縄文時代	縄文時代中期後期の竪穴住居跡、縄文土器 石棒・石冠が一對になって出土。
瑞穂遺跡 (宮川村杉原)	宮川村教育委員会 (河野典夫)	☆	縄文時代	床を意図的に焼いて固めた特殊住居跡。
宮ノ前遺跡 (宮川村西忍)	宮川村教育委員会 (林直樹)	☆	旧石器時代 ～縄文時代	旧石器時代の木製品・石製品、縄文時代草創期早期の土器。漆塗り木製櫛(縄文後・晩期)

(注) ★→文化財保護法57条の1項による発掘 ☆→文化財保護法98条の2項による発掘

センターだより



発掘作業風景（東白川村）

●発掘作業に参加して（その4）

小学校のころから土器や石器に興味がありました。今回陰地遺跡の発掘に6か月もの間お手伝いをしながら貴重な体験ができることは望外の幸せです。土の底から掘りだした遺物を掌にのせると、4,000年前の古代の人々からのメッセージが伝わって来るような気がいたします。今後道路改良工事等で消えていく遺跡が惜しまれます。

多くの遺物に番号札が付けられた時、見事だと感激しました。人類の過去・現在の生活の変化を皆さんと話し合い、楽しく明るく仕事ができることに感謝する日々です。永遠に残る仕事に参加させていただきありがとうございました。

■編纂後記

大江先生には、お忙しいところ貴重なご提言をお寄せいただきありがとうございました。

みちのくの しのぶもおずり 誰ゆゑに

乱れそめにし われならなくに

百人一首で耳慣れた「もおずり」は「ネジバナ」のことです。昨年の夏、徳山遺跡の近くの山中から採ってきたそのネジバナが、センターの花壇に根付きました。厳しい冬の寒さにも耐えて、今、緑の力強い株が幾つも出ています。4月に本部事務所が岐阜市へ移転した後も、ここに根を下ろしたネジバナは、増え続けて夏になると小さなピンク色の花を咲かせてくれることと思います。3年間の足跡とこれからの成果を見守るように……

●日誌

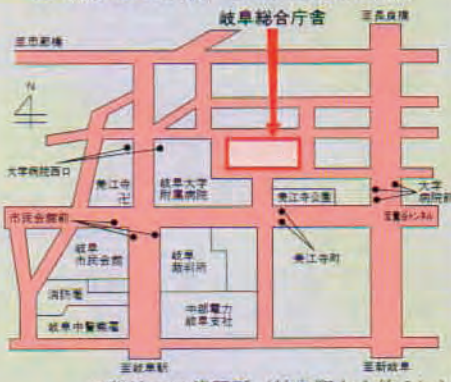
- 10.22 金沢大助教授鈴木氏・農林水産省森林総合研究所能城氏他1名、仲迫間遺跡視察
- 26 岐阜大教授川上氏・岐阜県博物館遠藤・大塚氏他2名仲迫間遺跡視察
- 28 白鳥町教育長丸井氏他1名、西ヶ洞遺跡視察
- 30 文化庁文化財記念物課調査官土肥氏・講談社編集局近藤氏他1名来所
- 11. 1 愛知学院大教授大参氏、仲迫間遺跡指導調査
岐阜大教授梶田氏、仲迫間遺跡指導調査
- 5 加茂高校教諭鹿野氏、仲迫間遺跡見学
- 8 丹生川村教育会49名、西田遺跡見学
- 11 大野郡小学校社会科研究会16名、西田遺跡見学
- 12 岐阜県博物館大塚氏、底津・飛瀬遺跡視察
- 14 底津遺跡現地説明会実施、94名参加
- 15・16 「ふるさと見学会」山手宮前遺跡見学、120名
- 20 日本考古学協会吉田氏・可見市教委長瀬氏、西ヶ洞遺跡指導調査
- 21 陰地遺跡現地説明会実施、140名参加
- 23 寺屋敷・山手宮前・上原遺跡現地説明会150名
- 29 大垣市今宿遺跡調査始め式実施
- 12. 5 勝更白山神社周辺遺跡現地説明会実施70名参加
- 17 助生存科学研究所専務理事小平氏来所
- 20・21 花園大教授伊藤氏・大垣市教委中井氏・大垣東高校伊藤氏、今宿遺跡視察
- 21 三重大教授八賀氏、西ヶ洞遺跡指導調査
- 24 愛知学院大教授大参氏、今宿・戸入村平遺跡指導調査
- 4 下呂小学校岩田氏、荒城神社遺跡指導調査
- 1.14 清見村教育長廣田氏飛騨出張所来所
- 26 東京国立文化財研究所保存部長三輪氏・中国国家文物局文物2處副長王氏来所
- 2. 2 新潟県文化センター井上氏他2名来所

●●本部事務所移転のお知らせ●●

平成6年4月1日より、当財団本部事務所を下記のとおり移転することとなりました。なお現事務所は4月より穂積整理所として存続しますので、よろしくお願ひします。

移転先〒500 岐阜県岐阜市司町1
(岐阜総合庁舎3階)

☎ 0582-64-1111(代) FAX 0582-64-0343



●印はバス停留所（岐阜駅から約2km）